



令和5年度

水稻の生育概況

彩の国
埼玉県
vol.3

埼玉県マスコット
「コバトン」

(令和5年8月4日現在)
埼玉県農業技術研究センター

要 約

◎気象概況：7月の平均気温は平年よりかなり高く、降水量は平年よりもかなり少なく、日照時間は平年よりかなり多かった。

◎生育状況：早期栽培の「コシヒカリ」の生育はほぼ平年並、出穂期は平年より5日程度早まった。

早植栽培の「彩のかがやき」の生育は平年に比べ、草丈はやや高く、茎数もやや多く、葉位の進展はやや早いことから、出穂期は平年より早まると予想される。また、葉色が淡く推移していることから高温による白未熟粒の発生が懸念される。

普通期栽培の「彩のきずな」の生育は平年に比べ、草丈はやや低く、茎数は平年並、葉位の進展はやや早かったことから、出穂期は平年より早まると予想される。

◎今後取るべき技術対策

- ・水 管 理：出穂後1週間までは湛水管理とし、その後は根の活力維持のために間断かん水を行う。出穂期後30日以前の早期落水は絶対にしない。
- ・穂 肥：「彩のかがやき」では出穂10日～15日前に葉色を再度確認し、葉色が低下していたら2回目を実施する。
- ・適期収穫：高温登熟では刈取適期も早まり、刈り遅れで胴割粒の発生が増加することから早めの収穫を心がける。
- ・病虫害防除：埼玉県病虫害防除所から「稲の斑点米カメムシ類について」の防除情報が発表されているので、防除対策を実施する。

1 気象の概況

7月の平均気温は、全半旬で平年値を上回り、月平均では平年より+2.9℃とかなり高く、熊谷地方气象台の観測史上1位（2018年と並ぶ）の値となった。降水量は、第2半旬を除いて平年より少なく、第5、6半旬は0mmであり、月合計では平年比22%とかなり少なかった。日照時間は、全半旬とも平年値を上回り、月合計では平年比169%とかなり多かった。

気象庁の発表（速報値）によると、関東甲信地方の梅雨明けは7月22日頃と平年より3日遅かった。梅雨期間の降水量は平年比86%であった。このためため池を水源とする地域の一部では出穂期に向けた十分な水量が確保されていな

い。

2 生育の概況

(1) センター内生育相

ア 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

高温の継続により葉位の進展や幼穂の伸長が早く、主稈総葉数は平年並であったものの、出穂期は平年より5日早まった。また、出穂始～穂揃期までの期間に10日を要し、平年より3日長かった。出穂期調査時点で莖数は平年比99%、風乾重は平年比103%であった。

イ 早植栽培（5月19日植 彩のかがやき）

移植後70日調査時点で葉位の進展は平年より0.5枚早かったが、幼穂長は1.5cm（平年値2.2cm）と平年値を下回っている。「彩のかがやき」は感光性が高く、幼穂形成開始時期の変動は少ないものの、他の品種同様に幼穂形成期から出穂期の幼穂の発達には気温の影響を受ける。このため、今後も高温が継続することが予想されていることから、出穂期は平年（8月13日）よりやや早まると予想される。莖数は平年比105%、風乾重は平年比121%であった。

ウ 普通期栽培（6月26日植 彩のきずな）

移植後30日調査時点で葉位の進展は平年より0.5枚早かった。中干し期間（7月19～25日）が高温多照で降雨がほぼなく、強い中干しとなり、草丈の伸長は抑制気味であり、平年より小さかった。今後高温が継続することが予想されていることから、出穂期は平年（8月17日）より早まると予想される。

(2) 県内全般

早期栽培の生育は平年に比べ草丈、莖数ともほぼ平年並、葉色はやや淡い傾向であった。出穂期は平年より5日程度早まり、8月上旬から収穫が始まっている。

早植栽培の生育は草丈、莖数ともほぼ平年並、葉色はやや淡い傾向であった。生育期間を通じ高温であったことから出穂期は平年に比べ早まる傾向にあった。

麦あと栽培を含む普通期栽培の生育は平年並であった。

3 今後の生育予測

(1) 気象予測

気象庁が7月27日に発表した1か月予報では、暖かい空気に覆われやすいため気温は高い見込みで、特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みである。

太平洋高気圧に覆われやすいため、日照時間は平年並か多い見込みである。週別の平均気温の見通しでも第2週目まで高い確率が80%とされている。

7月 25 日発表の3か月予報では、9月の天気は数日の周期で変わるが、前線や湿った空気及び気圧の谷間の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多く、気温は平年並か高い確率が40%である。

10月の天気は数日の周期で変わり、気温は平年並か高い確率が50%である。

(2) 生育予測

ア 早期栽培、早植栽培

早期栽培の生育は全般的に早まると予想され、登熟期間の短縮に伴い収穫時期も早まることが見込まれる。

玄米の品質面では、早期栽培、早植栽培ともに出穂期から日平均気温が27℃を超える日が続いており、今後も気温は高いと見込まれるため、白未熟粒などの高温障害の発生が懸念される。

イ 普通期栽培

生育は概ね順調に推移すると見込まれる。出穂期は早まると見込まれる。

4 今後取るべき技術対策

(1) 早期、早植栽培

ア 水管理

高温障害の発生が懸念されることから水管理に留意する。出穂期前後各1週間は深水管理とする。その後は3～4日間隔で落水と湛水を繰り返す間断かん水とし、根の活力維持に努める。

用水不足により深水を維持できない地域では、幼穂形成期から出穂期1週間後まで日中は田面が露出しない程度の浅水を保つ。さらに用水が不足する場合には、数日に1回かん水し、土壌が濡れた状態を維持するよう心掛ける。

玄米品質の低下を招くので出穂期後30日以前の早期落水は行わない。

台風接近時には深水管理とし、台風通過後のフェーン風が収まったら通常の水管理とする。

かけ流しは用水を大量に使用することから水不足を招き、かえって高温障害を助長する恐れがあるので行わない

イ 穂肥

早植栽培では、出穂前15～10日頃に葉色が葉色板で「4」を下回った場合必ず窒素成分で2kg/10a程度の追肥を実施する。コシヒカリなどの良食味米を元肥一発施肥体系で栽培している場合でも穂肥施用時期に葉色が薄い場合には追肥を行い、高温障害の軽減を図る。

ウ 収穫作業

登熟期間が高温のため登熟が早く進み収穫開始が早まる傾向があるので、コンバインや乾燥機の早めの準備を心がける。

刈り遅れは着色米や胴割米の発生を助長し外観品質や食味を著しく低下させる。

このため、登熟積算気温に達し、立毛籾水分が25%以下に低下したら速やかに刈り取りを始めるなど、帯緑色籾割合が多少高くても早刈りするよう心がける。

エ 病虫害防除

7月31日埼玉県病虫害防除所から令和5年度病虫害発生予察注意報（イネ斑点米カメムシ類）が出されているので、出穂期前後各2週間はほ場周辺の雑草の除草作業を避け、出穂期から乳熟期にかけて薬剤防除を心がける。

いもち病は、葉いもちの発生が見られたほ場では、収穫前日数に注意して防除を実施する。

また、紋枯病にも留意して発生を認めたら早期に薬剤防除を心がける。

(2) 普通期栽培

ア 水管理

幼穂形成期から出穂前後各1週間までは深水管理とする。その後は、間断かん水とする。

台風接近時には深水管理とし、台風通過後のフェーン風が収まったら通常の水管理とする。かけ流しは用水を大量に使用することから水不足を招き、かえって高温障害を助長する恐れがあるので行わない。

イ 穂肥

気象情報を参考に、登熟期間の高温が予想される場合は「彩のかがやき」では1回目の穂肥施用後でも、出穂前15～10日頃に葉色を確認し、葉色板で「4」以下に低下している場合は、窒素成分で2kg/10a程度を必ず追加施用する。

また、基肥一発施肥体系であっても出穂前15～10日前に葉色が「4」以下に低下している場合は、窒素成分で2kg/10a程度を必ず追加施用する。

ウ 病虫害防除

斑点米カメムシ類対策のため、出穂期前後各2週間はほ場周辺の雑草の刈取りを避け、出穂期から乳熟期にかけて薬剤防除を心がける。

いもち病の常発地など、葉いもちの発生が見られたほ場では、穂ばらみ期から穂揃い期に穂いもちの防除を心がける。

紋枯病の発生が多いほ場では、穂ばらみ期から出穂期に防除を心がける。

エ 雑草防除

クサネムなどの雑草種子は調製で除去しにくく、製品に混入すると、農産物検査で格落ちの要因となるので収穫前に取り除く。

解析・考察に用いた具体的数字

1 気象表

7月

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	26.6	24.6	31.4	29.2	22.5	21.0	4.0	27.8	30.7	19.8
2	27.7	25.2	33.3	30.0	23.2	21.5	31.5	29.8	28.7	20.9
3	28.1	25.7	33.4	30.6	24.1	22.0	2.0	28.7	24.1	22.5
4	30.6	26.2	36.3	31.1	25.9	22.4	0.5	26.6	51.5	24.1
5	28.7	26.7	35.0	31.7	24.0	22.9	0.0	25.0	46.8	25.7
6	31.3	27.3	38.9	32.6	25.9	23.4	0.0	27.6	65.4	33.9
平均	28.9	26.0	34.9	30.9	24.3	22.3	合計 38.0	169.8	247.2	146.0

注) 半旬数値は熊谷地方気象台日別測定値から集計。ただし、月平均、合計値は気象台測定値。
平年値は1991～2020年の気象台測定値。

2 早期栽培(5月1日植 コシヒカリ)

(1) 本田生育

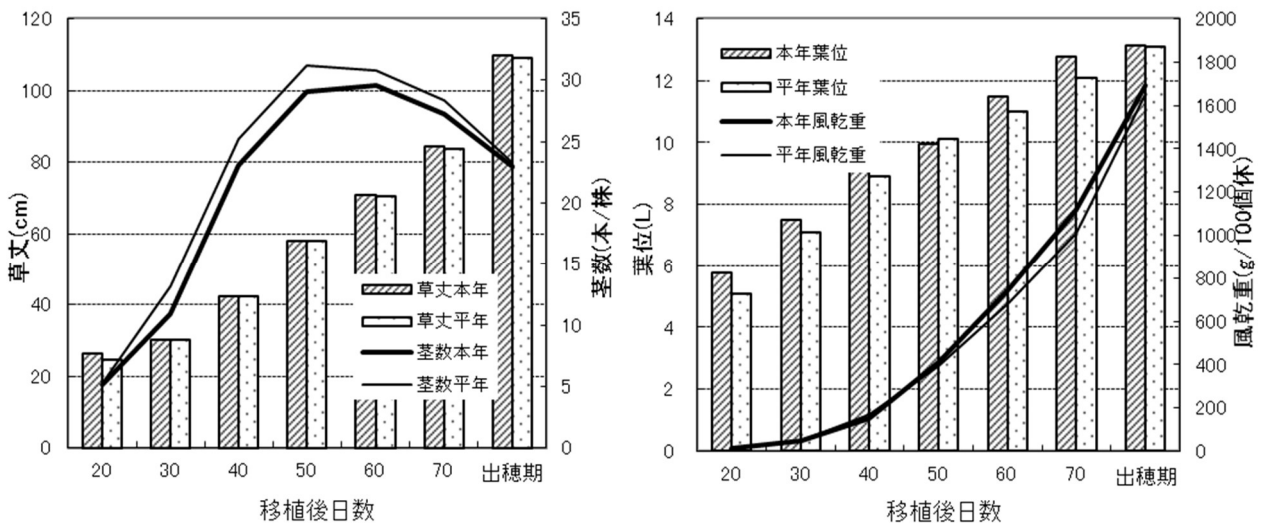
移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/100本)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
70	84.2	83.7	101	27.2	28.4	96	12.8	12.1	0.7	1118.0	1008.7	111
出穂期	109.8	108.9	101	23.0	23.3	99	13.2	13.1	0.0	1691.0	1649.5	103

注) 平年値は平成11年～令和4年の平均(H22を除く)。 平年比は%

(2) 出穂

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
7/14	7/21	-7	7/20	7/25	-5	7/24	7/28	-4

(3) 生育経過



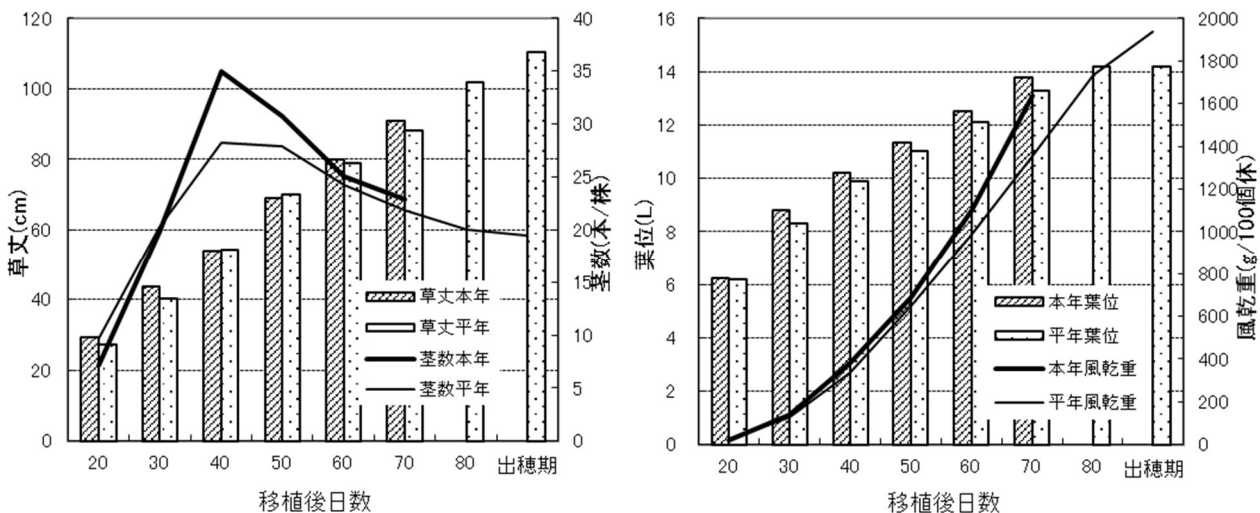
3 早植栽培（5月19日植 彩のかがやき）

（1）本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/100本)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
50	69.2	70.0	99	30.8	27.9	110	11.4	11.0	0.4	687.9	650.7	106
60	80.0	79.0	101	25.0	24.2	103	12.5	12.1	0.4	1098.8	987.1	111
70	90.9	88.3	103	22.9	21.9	105	13.8	13.3	0.5	1636.6	1354.2	121

注) 平年値は平成12年～令和4年の平均(H22を除く)。 平年比は%

（2）生育経過



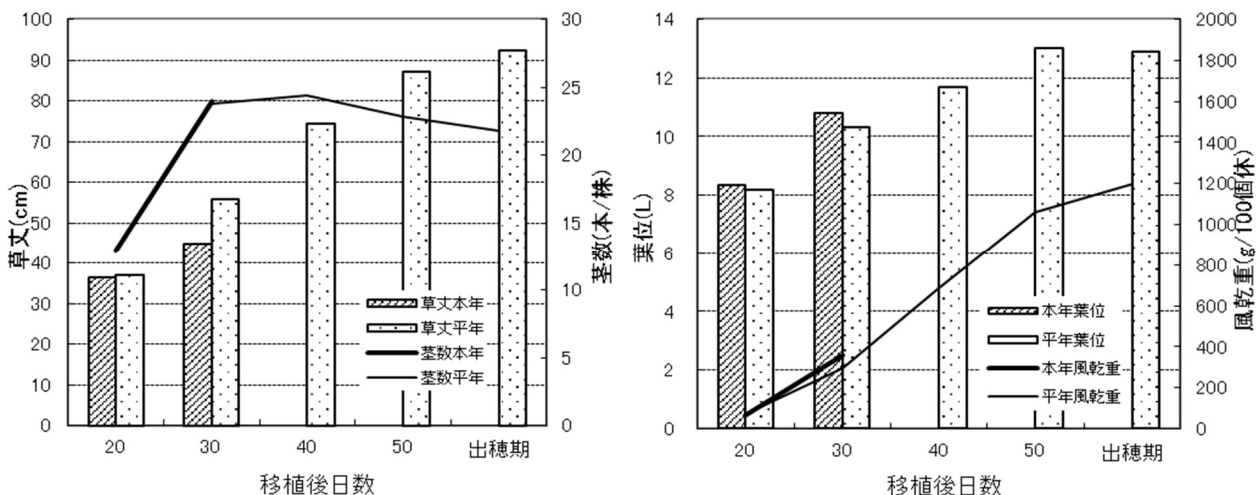
4 普通期栽培（6月26日植 彩のきずな）

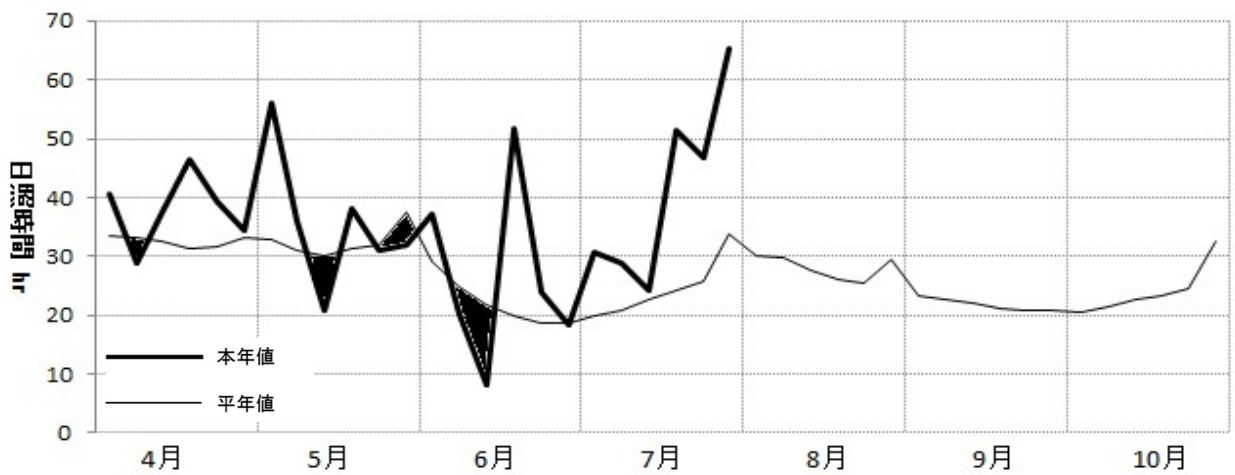
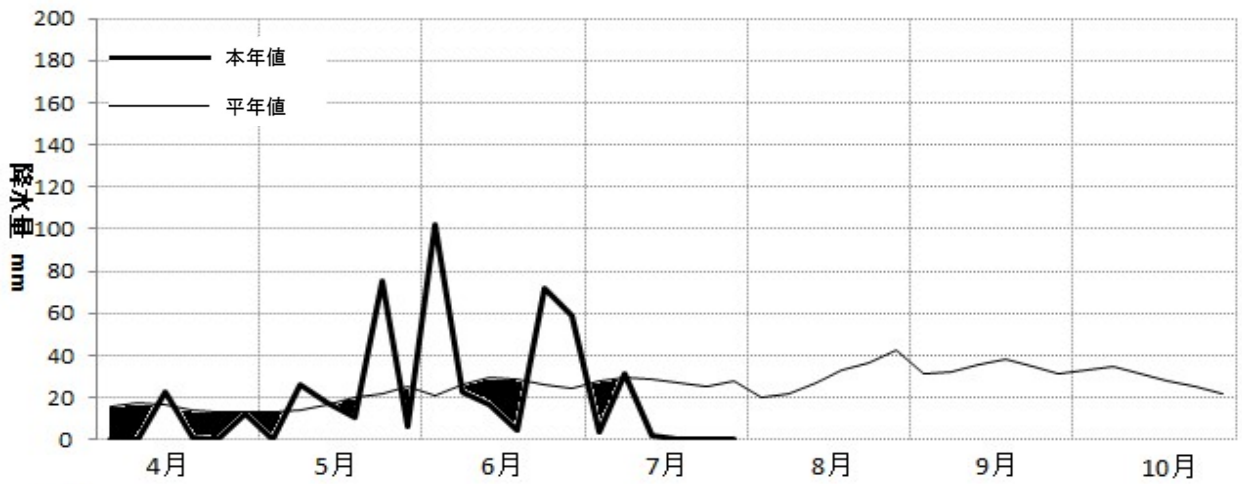
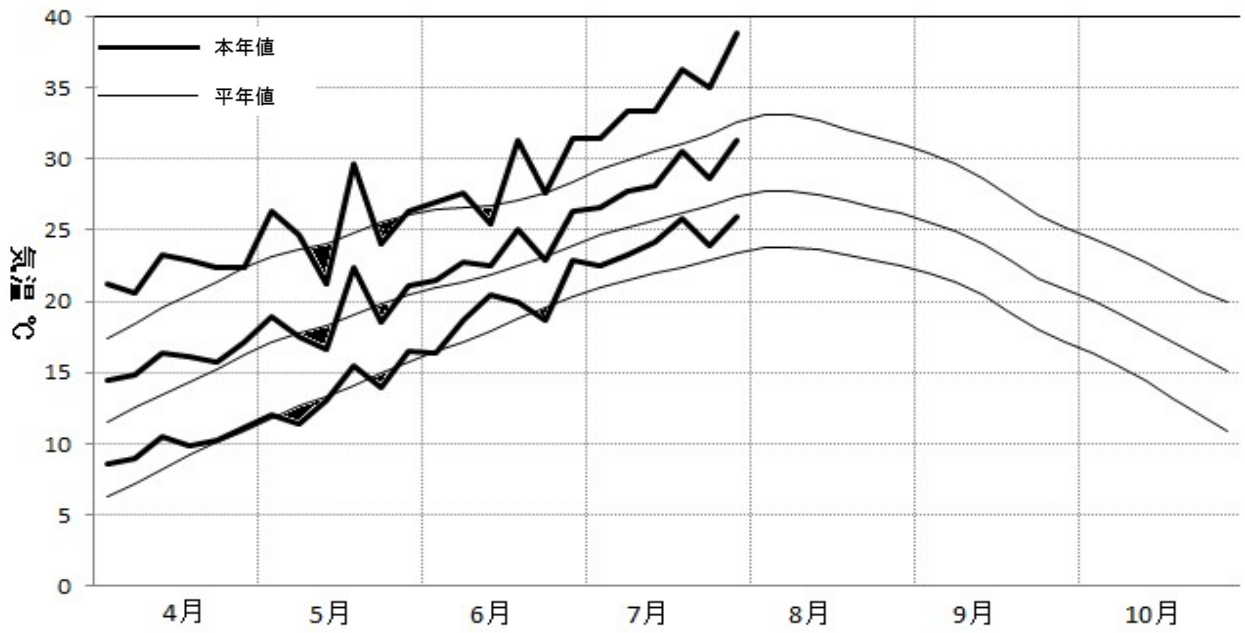
（1）本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/100本)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
20	36.4	37.1	98	12.9	12.8	101	8.4	8.2	0.2	66.8	71.9	93
30	45.0	55.8	81	24.0	23.8	101	10.8	10.3	0.5	355.8	294.3	121

注) 平年値は平成27年～令和4年の平均。 平年比は%

（2）生育経過





令和5年夏作期間気象図

(熊谷气象台日別測定値から作成)